

## 2016年度「食と農免疫合同講義」第6・7回特別講義を開催

2016年12月12日（月）13:30～15:20に青葉山新キャンパス農学系総合実験棟4Fセミナー室No.4においてカナダ・ゲルフ大学のDr. Neil A. Karrow先生とアルゼンチン・国立乳酸菌研究所（CERELA-CONICET）のDr. Julio Villena先生による「食と農免疫特別講義」（第6回と7回）が実施されました。Karrow先生には“Toxicity of Penicillium Micotoxins to Bovine Macrophages (BoMacs)”と題して、ウシ由来マクロファージにおける青カビ毒の毒性に関する研究について紹介していただきました。CFAIでは来年度より家畜由来細胞を用いた共同研究をKarrow先生と行う予定です。続いて、Villena先生には“Local and Long-distance Calling: Conversations between Immunobiotics and the Host and their Impact on Viral Infections”と題して、生体の遠位組織間における免疫調節機能性の存在とイムノバイオティクスによるその制御に関する話題を提供していただきました。Villena先生は昨年度に引き続いての特別講義の担当となりましたが、来年度も仙台を訪れていただく予定です。新キャンパスでの特別講義は今回が初めてであり、新しいセミナー室での両先生による興味深いお話に、受講者は真剣に耳を傾けていました。



Karrow先生



Villena先生



Karrow先生の授業



Villena先生の授業